

医療的ケア必要な子増加 中京でシンポ、在宅支援も手薄

京都新聞 電子版 2013年06月17日 11時31分

<http://www.kyoto-np.co.jp/politics/article/20130617000038>

たんの吸引や胃ろうからの栄養注入などの「医療的ケア」を取り巻く問題を考えるシンポジウムが16日、京都市中京区であった。東京都で小児在宅診療所を開く前田浩利さんが、医療的ケアを必要とする子どもの増加や、在宅支援体制が手薄な現状を報告した。

介護福祉士や介護職員などに医療的ケアの一部を認める法改正から1年がたち、現状や今後を考えようと、NPO法人「医療的ケアネット」（南区）が開いた。

前田さんは、新生児医療の発達により、人工呼吸器や経管栄養などが必要で超重症児とも呼ばれる子どもが「予想もしなかったほど増えた」と説明。その多くが在宅で多数の医療福祉サービスを併用していると言い、「子どもの生活や人生を豊かにするため、高齢者福祉のケアマネジャーのようなまとめ役が必要」と話した。

公的な調査が遅れているとされる障害児者の実態把握や、医療的ケア研修の報告もあった。…などと伝えています。

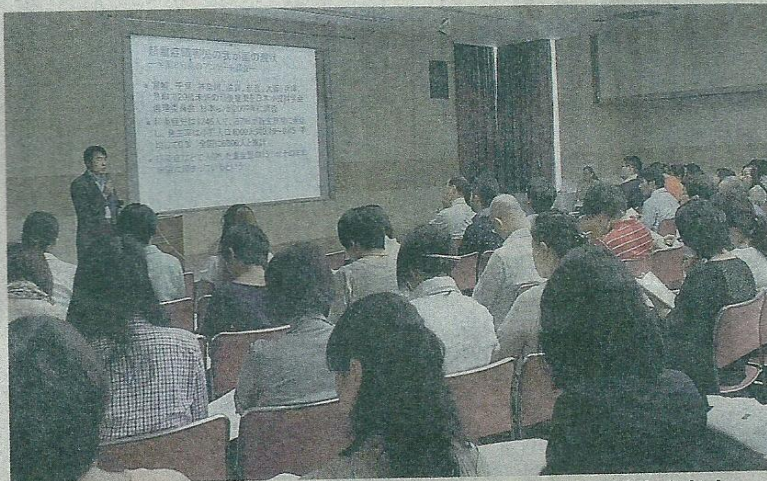
（京都新聞 6/17 朝刊 紙版より）

17

2013年(平成25年)6月17日 月曜日

+

医療的ケア 必要な子増加



医療的ケアを必要とする重度の障害児者の問題が報告されたシンポジウム（京都市中京区）

たんの吸引や胃ろうからの栄養注入などの「医療的ケア」を取り巻く問題を考えるシンポジウムが16日、京都市中京区であった。東京都で小児在宅診療所を開く前田浩利さんが、医療的ケアを必要とする子どもの増加や、在宅支援体制が手薄な現状を報告した。

（松田ゆい）

たん吸引
栄養注入

在宅支援も手薄

中京でシンポ

介護福祉士や介護職員などに医療的ケアの一部を認める法改正から1年がたち、現状や「医療的ケアネット」（南区）が開いた。前田さんは、新生児医療の発達により、人工呼吸器や経管栄養などが必要で超重症児とも呼ばれる子どもが「予想もしなかったほど増えた」と説明。その多くが在宅で多数の医療福祉サービスを併用していると言い、「子どもの生活や人生を豊かにするため、高齢者福祉のケアマネジャーのようなまとめ役が必要」と話した。

＜当日の会場模様です。撮影・編集：NPO法人医療的ケアネット事務局N＞

